

肱川における減災施策の推進（大洲市）

【取組概要】

一級河川肱川は、河床勾配が緩やかで河口が狭窄であるという地域的特性から、洪水が発生しやすい地形となっている。肱川の河川整備は、平成16年5月策定の「肱川水系河川整備計画」に基づき、管理者である国・県によるダムや堤防整備による治水対策が進められており、治水安全度は段階的に向上している。しかしながら、平成16年、17年、23年と浸水被害が頻発していることから、内水氾濫等の浸水被害を軽減させるため、平成25年3月に肱川減災対策計画を策定し、関係機関や地権者との調整が出来次第、順次計画的に排水路や止水壁等の整備を行っている。

人口 46,002 人

担当部署 治水課
事業実施期間 平成25年3月～
取組事例のURL



排水作業

【取組のポイント(特徴・先進性・特色など)】 【今後の構想や、他団体との連携の可能性】

洪水時に樋門を締め切るために内水による浸水被害に対する取組みが必要となっている。

(具体例)

- 内水排除や被害軽減を目的とする排水路や止水壁の整備
- ポンプによる内水排除のための業務委託の締結 等

引き続き、国・県によるダムや堤防整備による早期の治水安全度の向上とともに、内水対策により浸水被害の軽減を図る。



水路整備